資料２

仙台市発達障害者支援地域協議会作業部会の概要について（中間報告）

1　テーマ　　「成人期の自立を実現するために必要な支援やネットワークのあり方について」

2　委員について　　上記テーマに応じ、会長が指名する協議会委員及び臨時委員を下記の通り選任。

【令和5年度　作業部会委員（★印は協議会委員兼務）】

		氏名	ふりがな	所属・立場（役職）
1	部会長	★植木田　潤	うえきだ　じゅん	宮城教育大学教職大学院 教授
2	副部会長	佐々木　健太郎	ささき　けんたろう	尚絅学院大学 教育部門心理・教育学群 学校教育学類　准教授
3		★猪股　絵理子	いのまた　えりこ	保護者
4		★上西　創	かみにし　はじめ	仙台城南高等学校　スクールカウンセラー
5		畔柳　清美	くろやなぎ　きよみ	仙台市障害者就労支援センター　支援員
6		★齋藤　淳子	さいとう　あつこ	株式会社グッジョブ　代表取締役
7		★斎藤　純子	さいとう　じゅんこ	仙台市榴岡児童館　館長
8		西田　有吾	にしだ　ゆうご	仙台市自閉症児者相談センター　主任相談員
9		増山　裕子	ますやま　ゆうこ	宮城県立貞山高等学校　教諭

【令和4年度までの作業部会委員】

伊藤雄高（いとうゆたか）　特定NPO法人アスイクふれあい広場サテライト　ユニットリーダー・コーディネーター
齋藤涼平（さいとうりょうへい）仙台市障害者就労支援センター　主任支援員

3　議論の経過について

※資料３成人期の自立を実現するために必要な支援やネットワークのあり方について報告書（案）参照

【令和３年度】

作業部会を２回（1 月・3 月）開催し，発達障害児者が地域の中で自立して暮らす力を身に着けるために必要な力として「くらす」「はたらく」「たのしむ」の３つの観点を示し，自立における大切な視点として「安心できる関係づくり」「学齢期からの生活の土台作り」「情報のアクセスしやすさ」「具体的な経験の積み重ねと振り返り」の４つの項目が抽出された。そして，これらを包括する視点として「支援の垣根を越え、本人に必要な体験の機会を皆で協力して作ること」が挙げられ，「たのしい」活動は，どのライフステージにも共通する“縦軸”になりうることが確認された。

【令和４年度】

作業部会委員の実践を互いに見学するとともに，先駆的な取り組みを行っている「みつけばハウス（東京都世田谷区）」「ら・るーと（東京都品川区）」を見学し，11 月に開催された作業部会内で共有・意見交換を行った。これまでの議論を踏まえ，今後あるべき支援について「『たのしい』ことから始まる」「様々な年代が働きながらも利用できる『居場所』が必要だ」「本人が必要とする体験の機会が得られること」「『ハブ』の役割の重要性」「『ピア』な関係・支えたり高め合える仲間の存在」「様々な支援機関や社会資源がつながり合う仕組みづくり」が挙げられた。

4　今後のスケジュール等について

今年度の作業部会は 7 月 11 日に開催した。「ライフハック（生活・仕事・学業等を自分の発達特性に合わせて行う知恵やテクニック）は障害に抵抗がある方も先入観なく見られる。家族向けの内容もあると，つながるきっかけになる」「支援者がつながるきっかけに，ミニ講話と事例検討・交流会を企画してはどうか」等，各委員の実践に裏付けられる具体的なアイデアや，「当事者が安心できる場で“たのしい”体験をし，今度は地域にある諸活動にもアクセスし，様々な人と出会えると良い」「職業体験は当事者・支援者・企業側の信頼関係が前提となる。どうしたら拡充できるか考えたい」等の意見が挙げられた。

今後，作業部会を 12 月末～1 月上旬頃に開催し，既存の社会資源や委員が持つネットワークやアイデア等を鑑みながら検討を深め，本市における発達障害児者の支援体制整備について検討を深めていく。また，協議事項を「報告書」として公表するとともに，「アーチル療育セミナー」等で先進地の取り組みを交え，実践報告を行うことで市民・支援者向けの普及啓発も図っていく。